

佳作 受賞

富山県立高岡南高校

2年 坂井 怜菜 さん



作品名：「空港があることは…」

▽受賞のコメント

中学生の時に行った職業調べをきっかけに、将来の夢は空港のグランドスタッフです。それは作品を書く前も後も変わりませんが、JICAの国際協力出前講座やワークショップ（国際協力と多文化共生について）を聞き、途上国も見てみたくなりました。

▽作品本文

今、世界には空港がある国はいくつあるだろうか。

私がこの疑問を抱いたのには二つの理由がある。一つ目は、私の夢がグランドスタッフとして空港で働くことだからだ。実際に飛行機に乗るために空港へ行ったことはないが、本やメディアを通して知ったグランドスタッフの方々の、様々な国の人を相手に仕事をこなす姿に憧れて、なりたいと思うようになった。空港は世界を知るための入り口として、人々に夢を与える存在であると思う。だからこそ、世界中にはその入り口がどれほどあるのか気になった。二つ目は、企業の海外進出が進められる現代において、空港の有無は重要なポイントになると考えたからだ。

実際に調べてみると、ほとんどの国に空港があることが分かった。では、日本から直行便が出ている国の数はどうだろうか、と日本で一番国際線利用者が多いと言われる成田国際空港のホームページを見ると、四十ヶ国三地域に行くことができると分かった。世界には百九十ヶ国以上あるのだから、四十ヶ国という数字は決して多いとは言えないだろう。

グローバル化という言葉が聞かない日はないと思うほどに叫ばれているが、それと同様に異文化理解という言葉も耳にするようになった。ここで出てきたのは、両者は同時に推し進めていくことができるのか、という疑問だ。世界がグローバル化するという事は、世界が一体化することを指すのだから、文化も当然ひとつかたまりになっていくということだろう。一方で、異文化理解とは自分の文化とは異なる文化を理解しようとする努力を指すので、いくつもの文化が共存しているということになる。グローバル化によって、いくつもあった文化がひとつかたまりになった世界と、異文化理解によって様々な文化が共存している世界は、矛盾が生じてしまうので同時に成り立たせることができない。また、いくつかの文化がひとつかたまりになってしまうのは、これまでの人間の営みを否定しているようで、いい気分にはなれない。

だから、私はグローバル化は推し進めるべきではないと思う。みんなが同じような服を着て、同じような暮らしをして、同じ言葉話している世界はつまらない。自分とは全く異なる習慣を持つ人がいて、異なる食べ物を食べる人がいて、お互いを尊重する世界の方がずっといい。そのためには、私たち一人一人の意識を変えなければならない。相手の文化に近づけようと自分の文化を削っていくのではなく、相手の文化も大切にしながら自分の文化も大切にするという意識を持たなければ、各国が理想とする世界中の人々がお互いを理解し、手をとり合って生きていく社会を実現することはできないだろう。私は、飛行機で自国以外の国々へ行き、自分自身の目で見、その国のことを知ることが理想の社会実現への第一歩だと考えている。最初にも述べたように空港には重要な役割がある。空港が増えることは、私たちにとって決してマイナスには働かないだろう。

私が仕事に就く頃には、日本から直行便が出ている国は何か国になっているだろうか。

いつになれば、世界中の人々がみな夢を持てる日が来るのだろうか。